

石川県立白山青年の家及び石川県立白山ろく少年自然の家 中期経営目標 (実施期間 平成29年度～平成33年度)

平成29年3月 策定

1 施設の設置目的

本県の青少年教育施設の中核として、青少年の健全な育成を図ることを目的として設置されており、青少年のための各種の研修や団体の活動拠点となっています。

2 施設の果たすべき役割

青年の家及び少年自然の家は、青少年の教育施設として、思いやりや協調性などの社会性を育むとともに、自然に対する理解や畏敬の念を深め、豊かな感性やたくましく生きる力を育むため、集団宿泊活動や自然体験活動の機会を提供することを、その役割としています。

また、生涯学習振興の観点から、家庭、学校、地域などの教育・学習の場としての役割も担っています。

3 事業内容

(1) 研修会、講習会等の実施

県主催事業の「いしかわ子ども自然学校」や指定管理者が行う独自事業等を通し、白山ろくの自然や風土を取り入れた多様な活動プログラムを実施しています。

(2) 施設設備の提供及び指導と助言

学校や少年団体、企業等に対し、宿泊研修や自然体験活動、講習会等の活動提供を行うとともに、安心・安全な利用ができるよう受入れ事業の環境整備に努めています。

4 現状と課題

(1) 管理運営体制について〈両施設共通〉

- ・当施設では、民間のノウハウを活用して、施設を効果的・効率的に管理・運営するため、指定管理者制度を平成20年度から導入しています。
- ・施設の利用促進、施設・設備及び備品の維持管理及び修繕などの業務を指定管理者が行っており、当中期経営目標の実施期間である平成29年度から33年度までは、「一般財団法人 白山市地域振興公社」を指定管理者として指定しています。
- ・教育施設としての機能を円滑に発揮するために、石川県教育委員会職員を駐在させ、専門的技術的事項について意見を述べるとともに、指定管理者の求めに応じて事業への協力を行っています。また、指定管理者は、施設長に退職校長等教員経験者を充てています。
- ・利用者の安全確保及び職員の資質向上を図るため、定期的に職員研修を実施しています。

- ・県では、青少年教育施設運営会議を開催し、定期的に事業内容を確認するなど、指定管理者とともに、適正な管理・運営に努めています。

(2) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

〈白山青年の家〉

- ・平成27年度利用者数は、24,837人で指定管理者制度導入前の平成19年度と比較して、約12%増加しています。引き続き、年間を通じた利活用の促進に向けて、取り組みを強化していく必要があります。
- ・学校利用の促進に向けて、学校との連携を深め、教育的効果の期待できる活動プログラムの開発に努めるとともに、家族を対象とした体験プログラムを充実させ、利用促進を図る必要があります。
- ・指定管理者の独自事業として、大根寿司作りや味噌作りなど、地域人材を講師とした「さとやまサロン」を開催しています。今後も、地域と連携した魅力あるプログラムの充実に向けていく必要があります。

〈白山ろく少年自然の家〉

- ・少子化による児童生徒数の減少や施設の老朽化等により、利用促進を図る環境が厳しい中、平成27年度利用者数は18,195人で、指定管理者制度導入前の平成19年度と比較して約13%増加しています。ただ、学校利用の少ない春先や秋は、施設の閑散期となっており、閑散期を中心とした利活用促進に向けた取り組みを強化していく必要があります。
- ・利用する学校を中心に、自然体験の魅力をPRする出前授業を事前に実施するなど、児童生徒に対し活動の動機付けを行っています。今後も学校と連携し、教育的効果の期待できる活動プログラムの開発に努めていく必要があります。
- ・白山市が推進する「白山手取川ジオパーク」の活動と連動して「ジオツアーズ」と称した四季折々の自然体験プログラム（化石発掘体験、川遊び、トレッキング等）を実施しています。今後も、地域と連携した魅力あるプログラムの充実に向けていく必要があります。

〈両施設共通〉

- ・利用団体の拡大のために、学校関係や公民館等を訪問して施設PRに努めています。また、ホームページで、イベントや体験プログラムなどの情報を発信しているほか、白山市の広報誌をはじめとする様々なメディアを活用して施設の広報に努めています。今後も施設の魅力を県民に広くPRしていく必要があります。
- ・生涯学習の場として、より幅広い世代の利用につながるプログラムの開発を進める必要があります。

(3) 施設運営の効率化について〈両施設共通〉

- ・両施設は同じ教育施設であり、また近くに位置していることから、一括して指定管理者として指定し、効率的な管理運営に努めています。

- ・除雪作業時や繁忙期において、指定管理者職員を施設へ派遣するなど、柔軟な人員配置による業務の効率化を図っています。
- ・多くの施設を運営している指定管理者のスケールメリットを活かし、物品の共同購入や保守点検等の一括した業務委託をすることで、経費の削減に努めています。

5 中期経営目標

〈白山青年の家〉

(1) 中期経営目標(指定管理者が実現すべき目標)

- ① 利用者数を5年間で2%増加させます。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標		実績値	目標値 (H33)
① 利用者数		23,033人 (H23~27 平均)	23,500人
② 利用者アンケートによる満足度	利用者サービス	98.2% (H27)	95%以上
	施設の維持・管理	100.0% (H27)	95%以上

〈白山ろく少年自然の家〉

(1) 中期経営目標(指定管理者が実現すべき目標)

- ① 利用者数を5年間で2%増加させます。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、引き続き95%以上を維持します。

(2) 測定指標と目標値

測定指標		実績値	目標値 (H33)
① 利用者数		18,484人 (H23~27 平均)	18,900人
② 利用者アンケートによる満足度	利用者サービス	100.0% (H27)	95%以上
	施設の維持・管理	98.0% (H27)	95%以上

6 指定管理者が設定した目標達成に向けた具体的な取組内容

(1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

- ① 施設の利用促進に向けた取り組み

〈白山青年の家〉

- ・白山手取川ジオパークを体感できる活動プログラムの開発、充実に努めます。また、ウォークラリーコースの新設やクラフト活動など、新たな体験プログラムの開発に努めます。
- ・引き続き、指定管理者の独自事業「さとやまサロン」等において、地域の人材や教育力を活用した活動プログラムを提供します。
- ・生涯学習の場として、地域の公民館・女性団体・老人会等に積極的な働きかけを行い、閑散期及び平日の利用者の増加に努めます。

〈白山ろく少年自然の家〉

- ・白山手取川ジオパークを体感できる活動プログラムとして、施設周辺はもとより、手取川流域や白山ろく全体のフィールドを調査し、四季を通じた魅力的なプログラムの開発、独自事業の提案をします。
- ・白山恐竜パーク白峰など近隣施設との連携を図り、活動プログラムを充実させるとともに、引き続き小学生を対象とした化石学習などの出前講座を実施します。
- ・利用者増を図るため広報活動を強化します。特に、スポーツ団体、中高生の部活動利用、小集団の日帰り利用の促進を図ります。

〈両施設共通〉

- ・県内の学校関係や公民館、各種団体を訪問して施設利用を働きかけます。さらに、白山青年の家においては、民間企業に対し、研修等での利用を積極的に働きかけます。
- ・白山市の広報誌や地域情報誌へのイベント情報の掲載、ホームページでの情報発信など、引き続き広報活動の充実に努めます。

②サービス向上に向けた取り組み〈両施設共通〉

- ・利用者が快適に過ごせるように、施設内外の清掃の徹底、利用者への笑顔と気持ちのよい応対、館内掲示の工夫に努めます。
- ・利用者の安全・安心の観点から、活動に使用する用具や施設設備の定期的な点検、速やかな修繕に努めます。
- ・利用者のニーズや満足度を把握するため、アンケート調査や職員による聞き取り調査を行い、速やかに施設管理の改善につなげます。
- ・利用団体との事前打ち合わせ時に活動目標の共通理解を図り、より教育効果が高まるプログラム展開に努めます。
- ・活動場所への移動等に指定管理者が所管するマイクロバス等を活用するなど、利用者の利便性向上に努めます。
- ・定期的に接遇などの職員研修を実施し、「もてなしの心」の涵養と職員の資質向上に努めます。

(2)施設運営の効率化に向けた取り組み〈両施設共通〉

- ・保守点検等において指定管理者が管理する他の施設と一括して業務委託を行うとともに

に、物品の共同購入を行うことにより、経費削減を図ります。

- 施設内の節電等、職員の省エネ意識を高め、光熱費の削減を図ります。
- 指定管理者の物的資源や人的資源を活用し、効率的な施設運営に努めます。

参考資料①(白山青年の家)

(1)利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

項目	H25	H26	H27
利用人数(延利用者)	21,939 人	22,923 人	24,837 人
出前講座利用人数	—	—	—
小計	21,939 人	22,923 人	23,646 人
宿泊部屋稼働率	47.4 %	45.3 %	46.7 %
活動部屋稼働率	70.6 %	74.1 %	72.2 %

(2)使用許可等の状況

項目	H25	H26	H27
主催事業	35 団体	41 団体	39 団体
幼児団体	8 団体	3 団体	12 団体
小学校団体	10 団体	10 団体	9 団体
中学校団体	8 団体	11 団体	11 団体
高校団体	37 団体	40 団体	33 団体
大学団体	16 団体	16 団体	14 団体
少年団体	59 団体	48 団体	72 団体
大人団体	93 団体	108 団体	99 団体
計	266 団体	277 団体	289 団体

(3)使用料の収入実績

項目	H25	H26	H27
食事料	13,493 千円	14,551 千円	14,462 千円
宿泊料(寝具料)	5,066 千円	5,129 千円	5,306 千円
その他(暖房・レンタル)	718 千円	691 千円	729 千円
計	19,277 千円	20,371 千円	20,497 千円

参考資料②(白山ろく少年自然の家)

(1)利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

項目	H25	H26	H27
利用人数(延利用者)	18,398人	18,930人	18,195人
出前講座利用人数	3,858人	3,992人	3,228人
小計	22,256人	22,922人	21,423人
宿泊部屋稼働率	35.6%	39.3%	35.8%
活動部屋稼働率	37.9%	42.0%	36.8%

(2)使用許可等の状況

項目	H25	H26	H27
主催事業	25団体	28団体	17団体
幼児団体	10団体	8団体	7団体
小学校団体	66団体	76団体	72団体
中学校団体	6団体	11団体	9団体
高校団体	7団体	6団体	6団体
大学団体	6団体	5団体	7団体
少年団体	51団体	56団体	57団体
大人団体	3団体	7団体	6団体
計	174団体	197団体	181団体

(3)使用料の収入実績

項目	H25	H26	H27
食事料	13,965千円	14,116千円	13,300千円
宿泊料(寝具料)	1,521千円	1,524千円	1,419千円
その他(暖房・レンタル)	534千円	561千円	424千円
計	16,020千円	16,201千円	15,143千円